

がん死亡率の動向について検討を継続

平成24年度疾病構造の地域特性対策専門委員会

- 日 時 平成24年12月20日（木） 午後2時～午後3時10分
- 場 所 鳥取県健康会館 鳥取市戎町
- 出席者 9人
岡本健対協会長、岡田委員長、大口・能勢・吉中各委員
県健康政策課がん・生活習慣病対策室：下田課長補佐
健対協事務局：谷口事務局長、岩垣係長、田中主任

議 事

1. 平成23年度事業報告について

平成23年度の「疾病構造の地域特性に関する調査研究」と「母子保健対策調査研究」を纏め、第26集を作成し、関係先に配布した。

「腹腔鏡下幽門輪温存胃切除術（LAPPG）と腹腔鏡下迷走神経幽門輪温存胃切除術（LAVNPPG）の患者QOLに及ぼす影響についてのretrospectiveな研究」と「80歳以上高齢者肺がんにおける併発症を考慮した適切な術式選択と術後QOLの解析」については、平成23年度で終了し

た。

2. 平成24年度事業中間報告について

(1) 鳥取県における透析患者の実態調査と腎移植の推進に関する疫学調査（平成13年度より開始）

平成24年度も鳥取県臓器バンク、患者団体である腎友会の協力を得て、血液透析及び腹膜透析の現状についてアンケート調査を行い、腎移植に対する体制の調査を行い、医療体制の問題等を把握し、その解決方法を探っている。移植希望登録患者数は透析患者の約2.8%と全国平均4.2%に比べ

少ない。少ない理由としては、医療者側からの説明不足が挙げられている。院内コーディネーターの研修、また、臓器移植普及推進キャンペーン等を通じて啓発活動は行われている。

(2) 高齢者胃癌に対する手術治療、鳥取県中核病院へのアンケート調査と鳥取大学医学部の取組（平成24年度より開始）

80歳以上の超高齢者における胃癌手術件数は年々増加しているが、予後はあまりよくない。

その要因としては、高齢者ではD0またはD1郭清にとどまることが多く、75歳未満症例ではD2郭清が多いため、高齢者の予後が悪くなると考えられる。さらに、高齢者では術後の補助科療法が行われていないためとも考えられる。

(3) 鳥取県内での非アルコール性脂肪肝炎の現状（平成16年度より開始）

これまでは、鳥取県内の多施設での非アルコール性脂肪性肝疾患においてCK-18の分解産物であるM-30がNASHと単純性脂肪肝（simple steatosis；SS）の鑑別に有用であり、食事療法などの治療効果にも鋭敏に反応し、治療モニターにも有用であることを報告した。平成24年度は、NAFLD患者に対して新しいbiomarkerである可溶性LDL受容体を測定し、脂肪沈着の程度や炎症との関連と検討中である。

(4) 鳥取県におけるがん罹患・死亡の地域特性に関する疫学的研究（平成21年度より開始）

鳥取県におけるがん罹患・死亡の地域特性を明らかにして対がん活動の基礎資料を作成する。

(5) 呼吸器外科領域におけるロボット手術の有用性に関する検討（平成24年度）

da Vinci Sを用いた肺癌低侵襲手術によって、高齢者の負担が軽減されている。

ロボット手術は安全に導入でき、周術期因子は手術時間がいまだ長いものの、大きな術後合併症

はなく良好に経過した。単アーム解析であるが、QOLは身体機能、社会生活機能の回復に優れていた。

3. 平成25年度事業計画（案）について

平成25年度事業計画案が以下のとおり提出があった。

(1) 鳥取県における透析患者の実態調査と腎移植の推進に関する疫学調査

平成25年度も継続して、腎不全医療の諸問題を把握し、その解決方法を探る。

(2) 高齢者胃癌に対する手術治療、鳥取県中核病院へのアンケート調査と鳥取大学医学部の取組

平成25年度は山陰地方の主要な病院における80歳以上の胃癌患者手術の現状をアンケート調査する。

(3) 鳥取県内での非アルコール性脂肪肝炎の現状

平成25年度はsLDL-Rとこれまで検討してきたM-30との関連や相補性を検討し、鳥取県におけるNAFLD患者に対して治療の必要性や治療効果を推定できるか検討する。

(4) 鳥取県における部位別にみたがんの疫学的特性に関する研究

鳥取県では、75歳未満のがん死亡率が高いことが問題になっている。その原因を明らかにして効果的な対策を実施するには、部位別にみたがんの罹患、死亡動向の詳細な分析が必要となっている。平成25年度においては、部位別のがんの特徴を明らかにするために、鳥取県において頻度の高い部位のがん罹患・死亡の特徴を明らかにするための記述的疫学研究を実施する。具体的には、鳥取県がん登録資料や死亡統計を活用して、性別・年代別（75歳未満と75歳以上）の罹患・死亡状況

や市町村別、市郡別ならびに保健所管内別の状況について比較する。

(5) 時代とともに変化する肺癌に対する retrospective解析～鳥取県の傾向と今後の対応策を考える～(新規)

鳥取県は過去から肺癌死亡率が高く、特に平成22年は全国ワースト2位であった。かかる要因は鳥取県の肺癌罹患が高率であることも一因であるが、鳥取県と鳥取大学医学部附属病院のデータベースから、過去から現在まで、時代の変遷に伴う肺癌の特性を解析し、その間の治療法の変化を調査する。

調査研究内容について、以下の意見があった。

鳥取県のがん75歳未満年齢調整死亡率は全国ワースト2位である。現在、「がん対策推進評価専門部会」において原因究明の審議がなされている。本県では全年齢におけるがん死亡率が全国でも高く、特に肝臓、胃、肺が高いことが大きく寄与しているが注目されている。

本会の調査研究から何らかの情報が発信できればと考える。

胃がんについては、ピロリ菌感染調査、肝がんについては肝炎ウイルスのフォローアップ関連データの解析を取り組んで頂いてはどうかという意見があった。よって、平成25年度事業に向けて、再度、研究テーマについて検討して頂くようお願いすることとなった。